

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題		○成果	▲課題
	第4学年	第5学年	第6学年
国語	○教科達成率が85%を超え、おおむね定着している。 ▲「書くこと」、「読むこと」の領域において、正答率が低い。思ったことについて理由を明らかにして書くことに課題がある。	○教科達成率は、92%を超え、定着している。特に「読むこと」の達成率が高い。 ▲「書くこと」の領域において正答率が低く、字数を満たして書くこと、具体的に詳しく書くことに課題がある。	○「話すこと・聞くこと」の領域は目標値に対して正答率が13ポイント以上を上回り、おおむね定着している。 ▲「読むこと」の領域において正答率がやや低く課題がある。また、和語・漢語・外来語の理解に課題がある。
社会	○「地理的環境と人々の生活」、「現代社会の仕組みや働きと生活」の領域は、おおむね定着している。 ▲「歴史と人々の生活」の領域において、記述で回答する問題に対しての正答率が低く課題がある。	○教科達成率は、82%を超え、おおむね定着している。 ▲複数の資料から情報を読み取ったり、結び付けて考えたりして表現することに課題がある。	○「現代社会の仕組みや働きと生活」の領域の理解は、おおむね定着している。 ▲日本の地形と気候、情報社会についての理解 自然の働きや自然災害についての理解に課題がある。
算数	○教科達成率は81%を超え、おおむね定着している。 ▲数量の関係を式に表し答えを求める問題についての正答率が低く、課題である。	○教科達成率は83%を超え、おおむね定着している。 ▲余りのあるわり算の計算、概数の反復練習と文章問題での立式の指導の補充が必要である。	○教科達成率は87%を超え、おおむね定着している。領域としては、「変化と関係」「データの活用」の達成率が高い。 ▲「知識・技能」において定着に差が見られ、児童の理解や習熟の程度に合わせた個に応じた指導が必要である。
理科	○どの観点、領域においても85%を超えおおむね定着している。 ▲磁石の性質についての知識・理解において課題がある。	○教科達成率は82%を超え、おおむね理解できている。 ▲現象の規則性を理解して、類推することに課題がある。日常生活の中で、学んだことを生かして考える意識付けが必要である。	○どの領域においても達成率は80%を超え、おおむね定着している。 ▲「知識・技能」において達成率は80%を超えているが、定着に差が見られる。観察や実験などの結果と知識を結び付けて考える力に課題がある。
授業改善の方針			
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「書く能力」を高めるために次の3点の手だてを講じる。 <ol style="list-style-type: none"> ①日常の中で書く場を計画的に増やし、書くことへの苦手意識や抵抗感を減らせるようにする。(日記や観察、作文などを家庭学習でも取り入れる。) ②説明文や物語教材のキーワードやキーセンテンスを意識し、字数に気を付けて、要旨をまとめる学習を取り入れる。 ③作文を書く際には構成を意識して書くようにする。 ・「読む能力」を高めるために、文章から読み取った内容について、その根拠となる叙述ほどこなのかを意識させるようにし、根拠を明らかにして相互に交流し合う活動を多く取り入れるようにする。 		
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・単元導入時に、ICTを活用して関連する写真やグラフ等を提示し、学習への興味や関心を高められるようにする。 ・日頃から、新聞やニュースなどを基に、様々な情報を提示することで、課題意識をもち、課題について自分の考えをもつ。 ・グラフや資料を扱う際には、複数の資料を提示したり、資料から読み取ったことをグループ等で交流したりすることで、多角的な見方や考え方ができるようにする。 ・地図帳や統計・年表などを活用したり、白地図や新聞にまとめる活動を意図的に取り入れる。 		
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・単元導入で、日常生活と結び付けながら、算数の考え方をを使って問題解決できる場面を設定する。 ・既習事項と新しい知識を結び付け、自力解決する場面を設定する。 ・算数の学習として学んだことを日常の事象に戻って生かす場面を設定する。 ・少人数習熟度の学習形態を生かし、D層の児童には個別指導の時間を多く確保する。 		
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・単元導入時に、関連する既習事項や生活経験を想起させ、これから始まる学習とのつながりを意識できるようにして、興味や関心を高める。 ・単元の中で「問題の見だし～予想～実験計画～観察・実験～結果～考察～結論」を繰り返して行い、問題解決能力を高めるとともに、特に実験結果から考察し、結論を導く活動を通して思考力を伸ばす。 ・可能な限り実際に観察・実験を行い、児童が実感を持った考察ができるようにする。 ・実験結果の共有や単元の特性に応じた動画の視聴などで、ICTを積極的に活用し、理解を深める。 		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・常時活動を工夫して、基礎的・基本的な知識技能の定着を図る。 ・個別、グループ、全体など場面や活動内容に即した学習方法を工夫し、個別最適な場面と協働的な場面を取り入れる。 ・表現する楽しさや喜びの経験から、伝える力や他者とつながる活動を重視する。 ・グローバル化する社会を視野に入れ、様々な国や地域の楽曲と出会い触れる機会を増やし、豊かな感性の育成を図る。 		
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じた題材設定を行い、興味や関心をもって授業に取り組む。 ・協働的な活動や対話的な活動をとおり、児童の思考力、判断力、表現力を高める。 ・一人一人が自分らしく工夫をしたり、試行錯誤をしたりする時間を十分に確保する。 ・完成した作品を随時展示し、豊かな発想につながるようにする。 		
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・制作や調理実習などの体験をとおり、家庭や実生活とのつながりを意識させ、学習への意欲をもたせる。 ・学習したことと日常生活のかかわりに気付き、社会や環境に視野を広げるとともに、SDGsにも関連付けて学習できるようにする。 		
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人に技能に関する具体的なめあてをもって学習に取り組み、振り返りをするることによって次の学習に生かす。 ・スポーツ鬼ごっこやコーディネーショントレーニングを日常的に取り入れ、体を動かすことの楽しさを身近に感じられる工夫をする。 ・対話的な学習活動や ICT 機器の利用をとおり、それぞれの運動の特性に応じた技能を身に付け、よい動きを見極めたり、自己の機能や体力を自覚したりする力を育成する。 		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットの順番や文字を定着させるため、短時間学習の際に繰り返し取り組んだり、掲示物を工夫したりして日常的に学習できる環境を整える。 ・高学年の外国語科では、振り返りの時間を設け、児童が自分で到達度を確認できるようにする。 ・既習の表現を使いながら自分の伝えたいことを相手に伝えられるようにする。 		